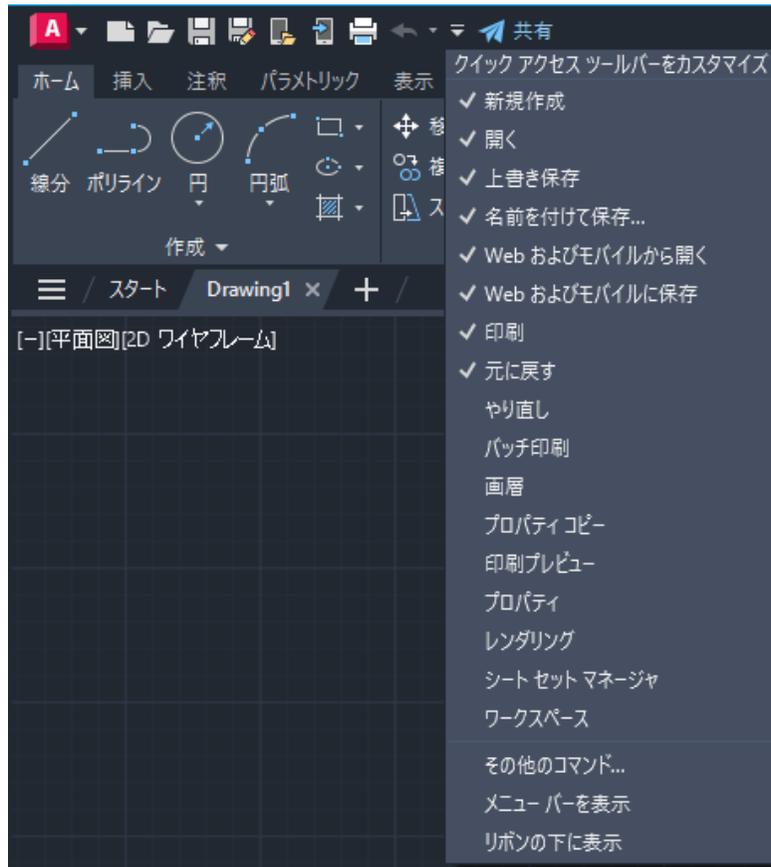


# クイックアクセスツールバー

画面左上の小さめのアイコンが並んでいる部分を「**クイックアクセスツールバー**」と呼びます。

ここに、代表的なコマンドを設定しておくことで、メニュー、リボン、コマンドラインなどを使用することなくワンクリックにてコマンドを実行することができます。

初期状態では左図のように、「新規作成」から「ワークスペース」までの17個のコマンドは登録されていて、そのうちの「新規作成」から「元に戻す」までの7つのコマンドが有効になっています



次ページから各コマンドの説明を記します

## 新規作成

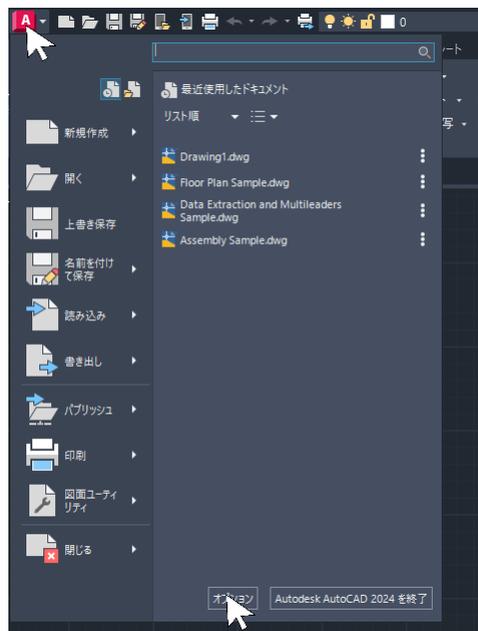


図面テンプレートを用いて新規の図面を作成する場合に使用します。

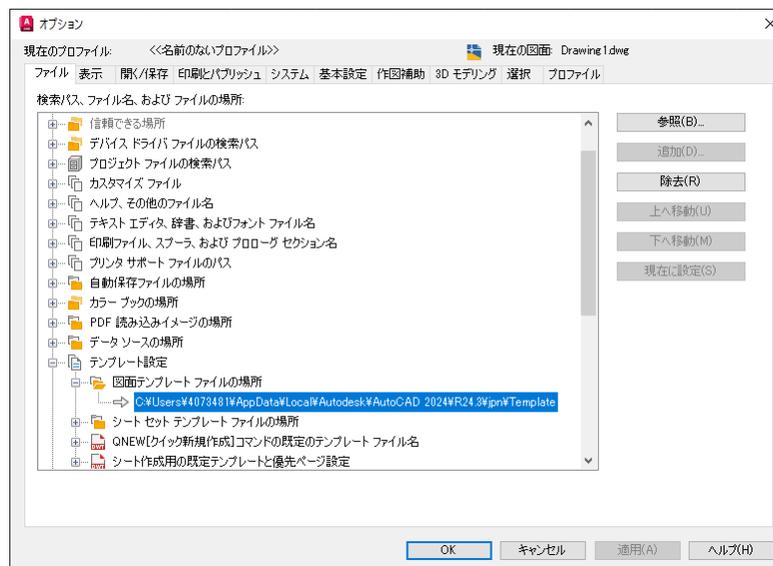
初期状態では、「オプション」→「ファイル」→「テンプレート設定」→「図面テンプレートファイルの場所」に記録されている

“C:¥Users¥ユーザー名¥AppData¥Local¥Autodesk¥AutoCAD 2024¥R24.3¥jpn¥Template”

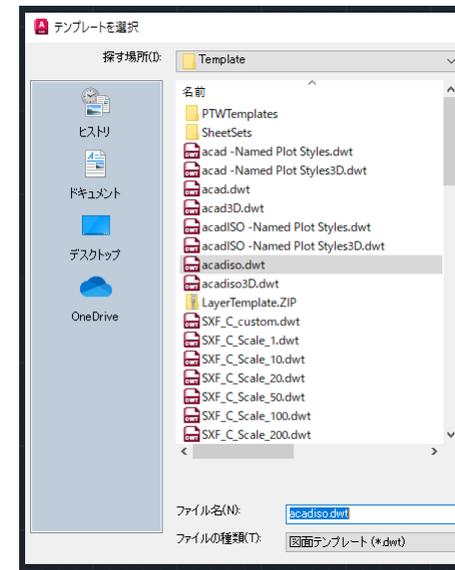
フォルダを表示します。



「オプション」の開き方



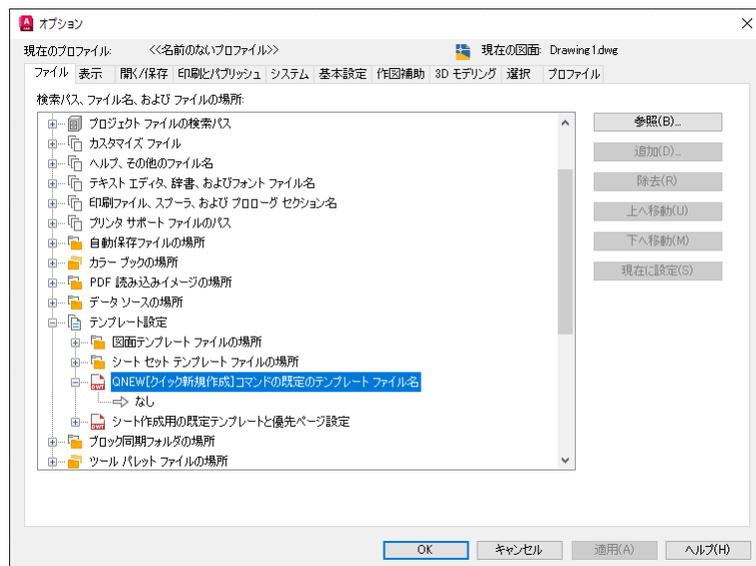
「オプション」ダイアログ「ファイル」タブ



「テンプレート選択」

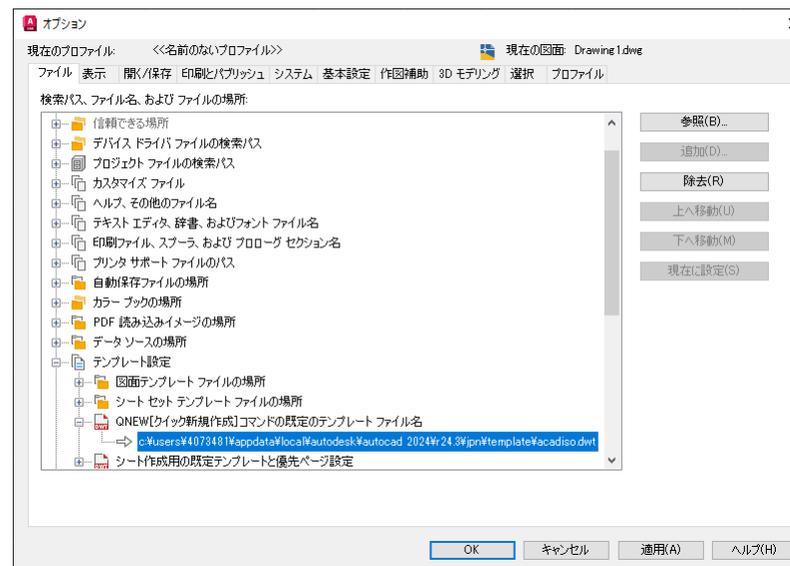
## 新規作成（つづき）

「テンプレート設定」→「QNEW [クイック新規作成] コマンドの既定のテンプレートファイル名」に、規定のテンプレートファイル名が設定することで テンプレート選択ダイアログを表示することなく、設定された図面テンプレートを直接開くことが可能になります。



初期状態では図面テンプレートは登録されておらず（なし）が表示されています。

この場合は、前述のように「図面テンプレートファイルの場所」にて指定されたフォルダ内のファイルを選択ダイアログにて表示します



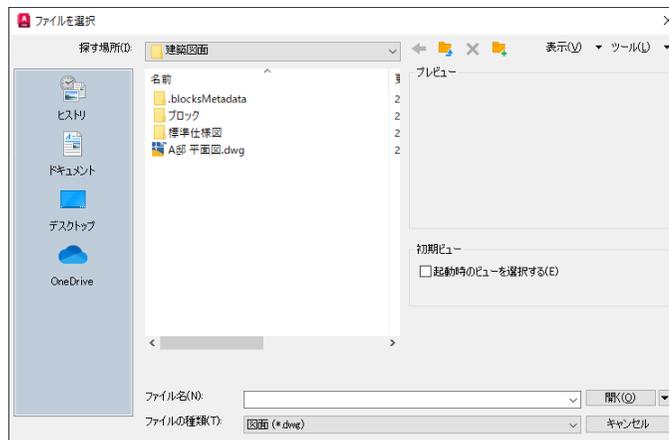
「参照」ボタンを用いて、任意のテンプレートファイルを設定します。

この場合は、選択ダイアログは表示されず、設定されたファイルを直接開きます。

開く



「ファイルを選択」ダイアグラムが表示されます。表示されるフォルダは、AutoCADが記憶している最後に使用したフォルダとなります。

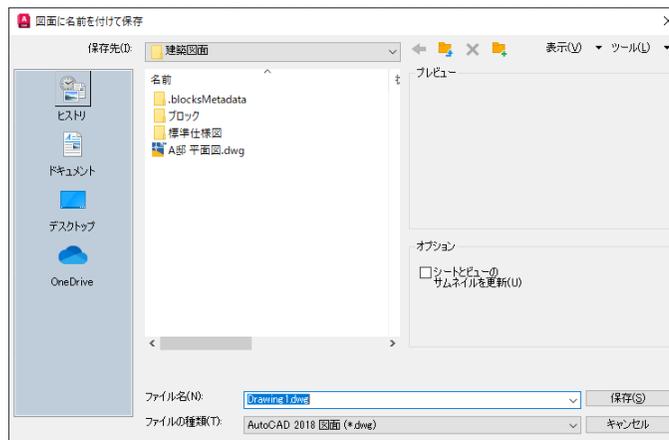


上書き保存



ファイルを上書き保存します。

一度も保存されていない図面の状態（テンプレートから新規作成した図面）で「上書き保存」を実行すると、「図面に名前を付けて保存」ダイアグラムが表示され、次項の「名前を付けて保存」を同様の動作となります。

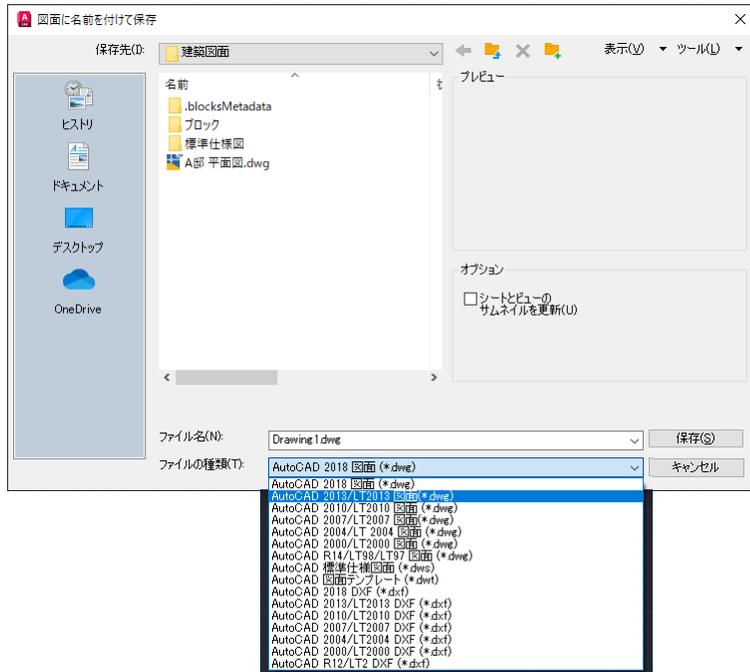


## 名前を付けて保存



「図面に名前を付けて保存」ダイアグラムが表示されます。表示されるフォルダは、AutoCADが記憶している最後に使用したフォルダとなります。

保存時は、ファイルの種類を指定します。



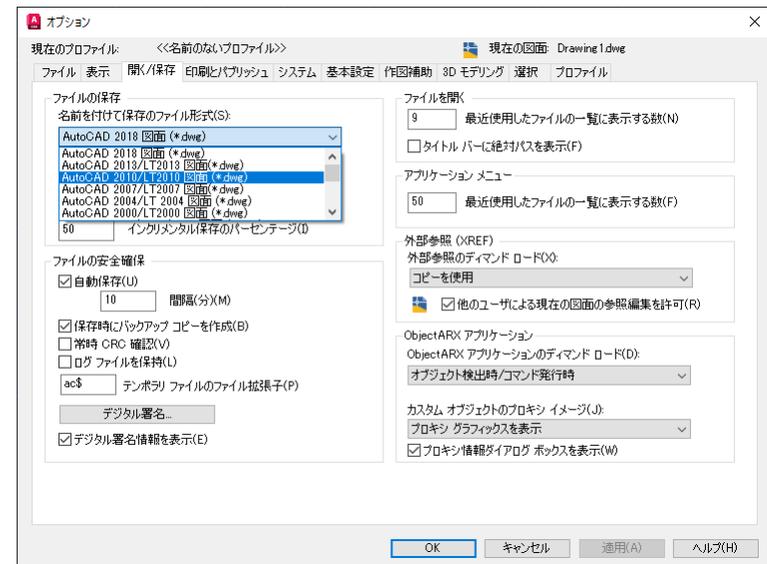
保存するときのファイル形式の設定

dwg形式だけでなく、dws、dwt、dwf形式などが選択できます。

グループ内でファイルを共有している場合は、全員が編集可能なバージョンにて保存するのが良いでしょう。

「オプション」→「開く/保存」→「ファイルの保存」にてデフォルトのファイル形式を指定しておくことが可能です。

また、他社などに dwg ファイルを送付するときなどは、対応可能なバージョンを確認する必要があります。



保存するファイル形式のデフォルト設定

## 【メモ ①】

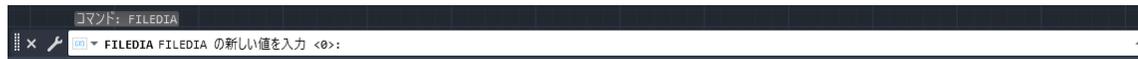
保存することなく、図面を閉じると編集データは失われてしまいますので注意してください。

AutoCADには「**自動保存**」という機能があり一定時間間隔にてファイルのバックアップを取ることが可能なのですが、図面を閉じたタイミングで同バックアップファイルは削除されてしまいます。

自動保存は、あくまでも AutoCAD がクラッシュしたり異常終了した場合に限り有効なようです。

## 【メモ ②】

「開く」「名前を付けて保存」の時に「ファイル選択ダイアグラム」が表示されない時は、システム変数「FILEDIA」を確認してみてください。設定が<0>になっているときは1に変更しましょう。



システム変数「FILEDIA」を確認する



このコマンドは **AutoCAD webアプリ** を使用している場合にのみ有効です。  
コマンドの説明の前に、AutoCAD webアプリについて、概要を説明します。

### 【参考】 AutoCAD webアプリの概要

Webブラウザ（Google Chrome、Mozilla Firefox など）にて、web.autocad.com にアクセスすることで AutoCAD をインストールすることなく AutoCAD を使用できます。

#### ■ 使用条件

同アプリを使用するためには以下のいずれかの方法で Autodeskアカウントを所有していなければなりません。

- ① AutoCAD 2019/AutoCAD LT 2019 以降のサブスクリプションメンバー
- ② AutoCAD Web のサブスクリプションメンバー（2024年9月現在 13,200円/年 1,100円/月 です）

#### ■ 起動方法

- ① Web版 : パソコンから web.autocad.com にアクセス、Autodeskアカウントにてサインインします
- ② モバイル版 : モバイルデバイスでは、Apple Store または Google Play Store から「AutoCAD-DWGエディタ」をインストール、Autodeskアカウントにてサインインします

#### ■ 機能/UI

AutoCAD の全機能が使用できるわけではないようです。  
参考までに、次ページにWeb版とモバイル版のUI画面を示します。  
正直言って、モバイル版はあまり多くを望めなような感じです。

#### ■ ファイルの保管場所

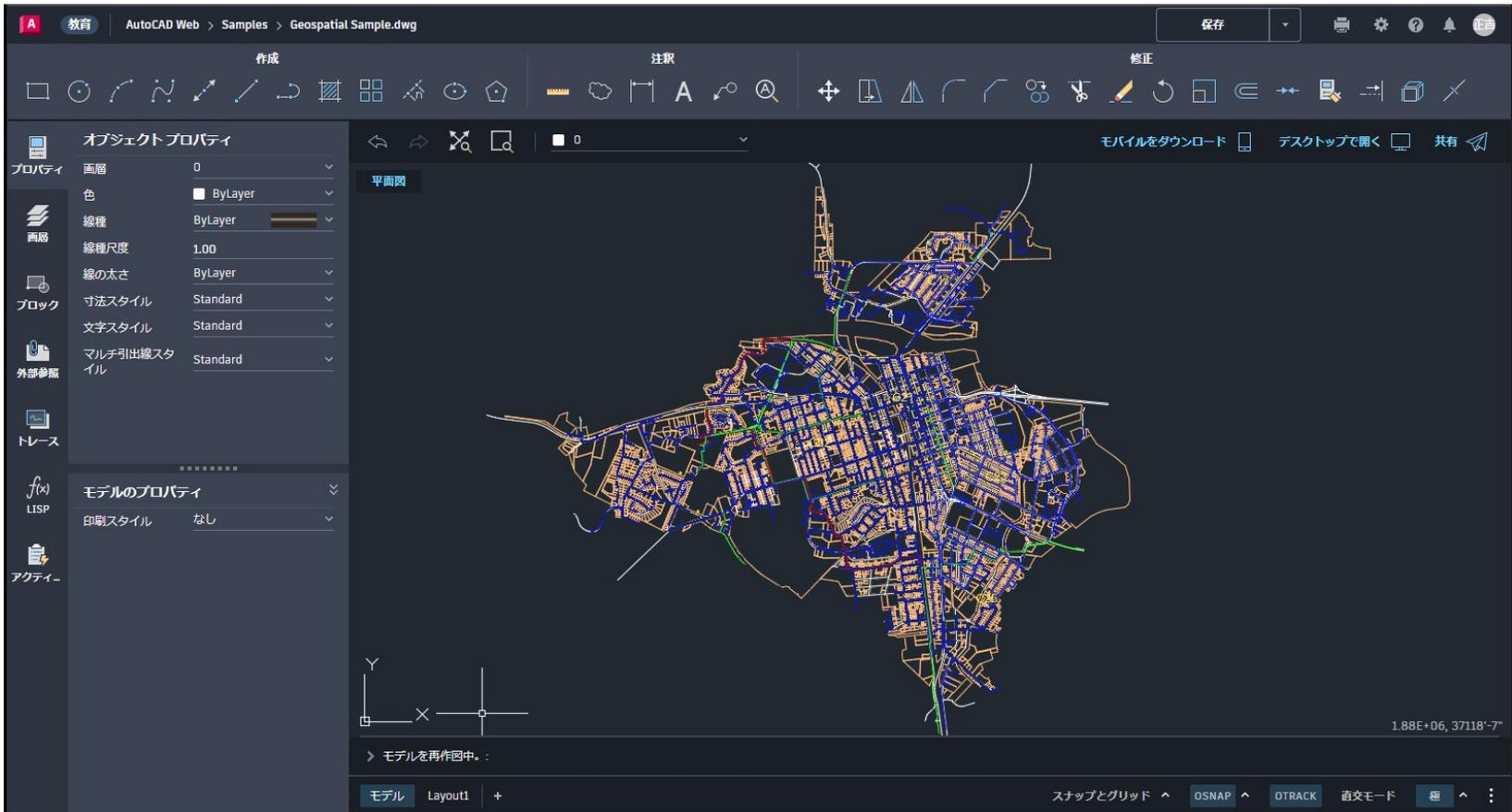
AutoCAD webストレージ / OneDrive / Google Drive / Box / Autodesk Docs などのクラウドストレージに直接アクセスできるようです。  
もちろん、デバイスローカルのフォルダもアクセス可能です。

#### ■ AutoCAD webストレージ 容量

2024年9月現在、無制限ということです。

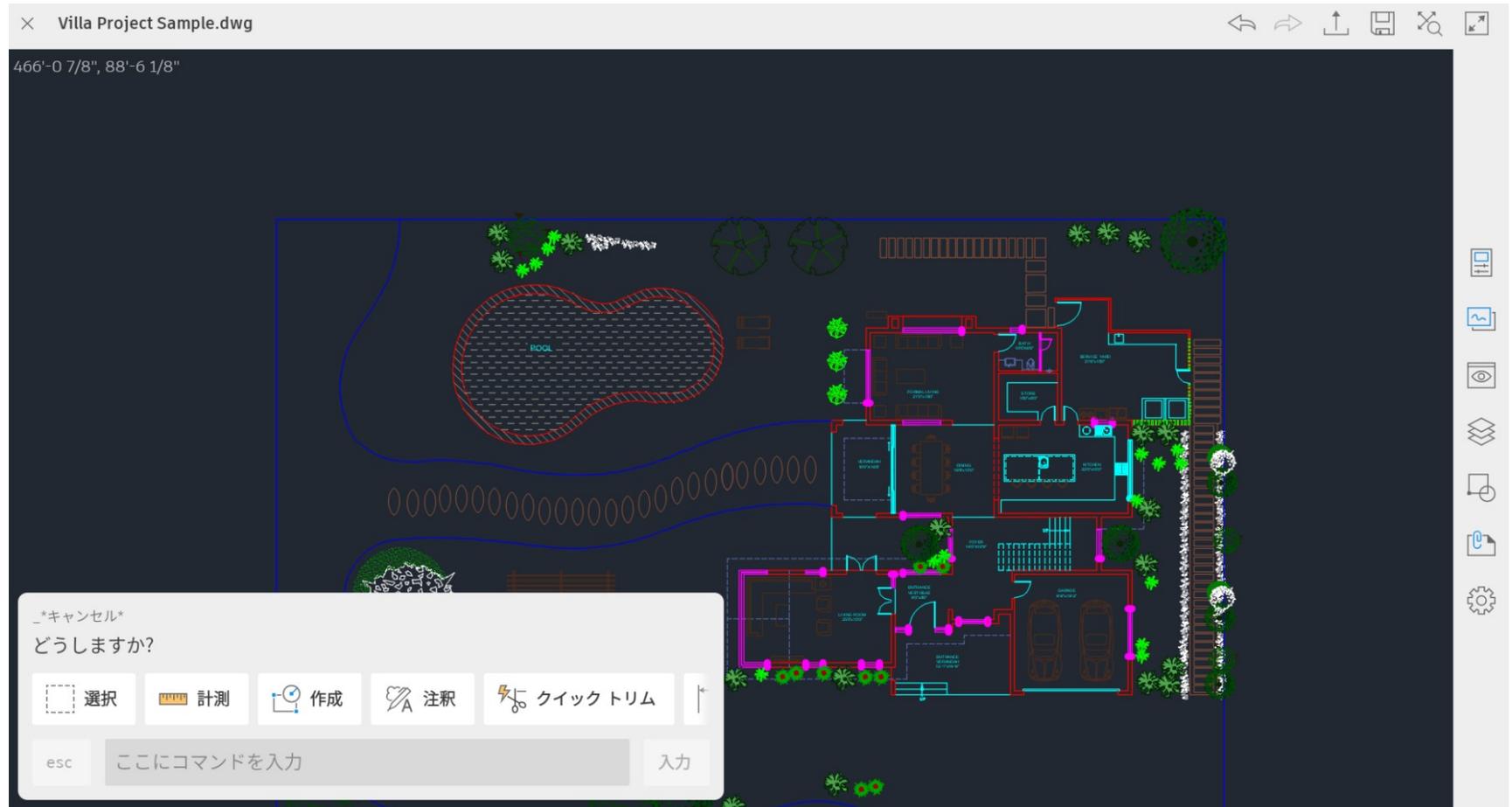
## 【参考】AutoCAD Web版のUI

検証していないので何とも言えませんが、個人的には、使用用途は AutoCAD webストレージ（容量無制限）ぐらいしか思いつきません。ただ、Web版で用が足りる（PCインストール版不要）のであれば、Web版のサブスクリプションは安価なので、用途は広がると思います。



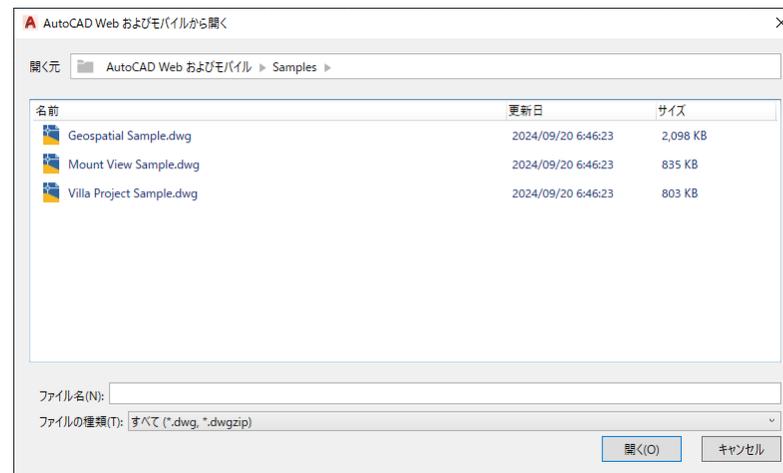
## 【参考】AutoCAD モバイル版のUI

検証していないので何とも言えませんが、個人的には、使用用途は今のところ思いつきません。



## Webおよびモバイルから開く（つづき）

ということで、このコマンドは AutoCAD / AutoCAD Web版 / AutoCAD モバイル版 でそれぞれ「作成/編集」して「AutoCAD webストレージ」に保存した ファイルを開きます。後述の「\*.dwgzip」形式のファイルも開くことが可能です。

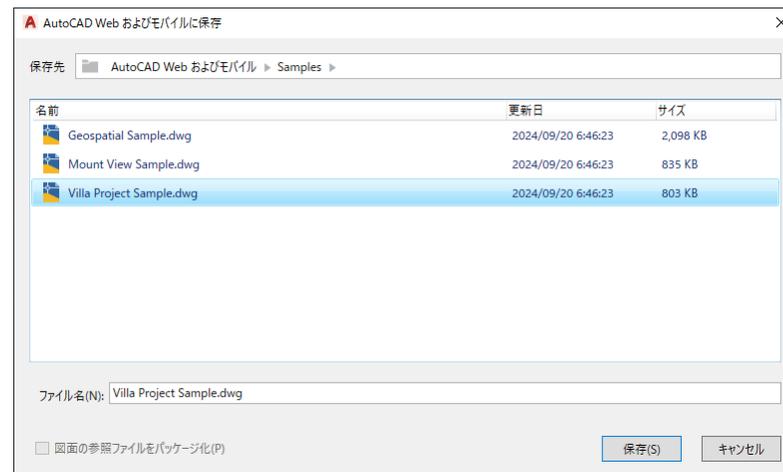


AutoCAD Web およびモバイルから開く

## Webおよびモバイルに保存

AutoCAD にて作成/編集したファイルを、「AutoCAD webストレージ」に保存します。

保存する図面が外部参照を含む場合は「図面の参照ファイルをパッケージ化」にチェックを入れて1つのファイルにバンドルし「\*.dwgzip」形式にて保存します。



AutoCAD Web およびモバイルに保存

印刷



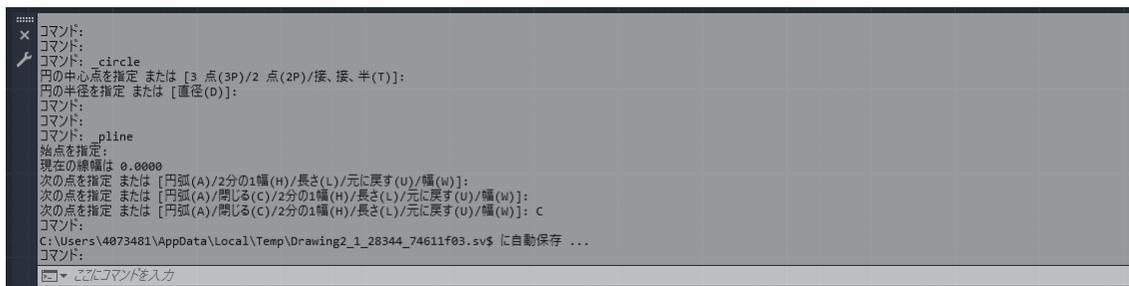
この項目は、内容が多岐にわたるため別途「印刷」の題目にて投稿したいと思います。

元に戻す

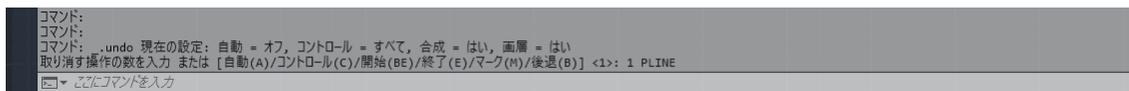


コマンド操作を取り消します。  
取消対象がない場合は、 グレーアウトにて表示されます。

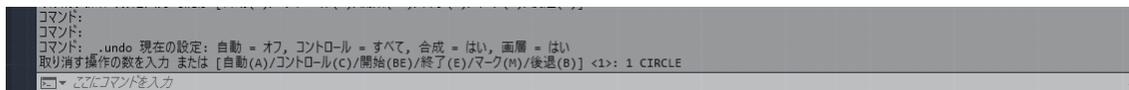
実行例) 順に、長方形を描画 → 円を描画 → ポリラインにて三角を描画 します。



このときの、コマンドウィンドウの表示は上図のようになります。  
ここで、 を1回クリックすると、三角が消えます（三角を描く前の状態になります）。

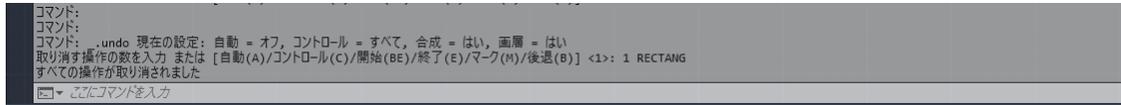


もう一度、 を1回クリックすると、円が消えます（円を描く前の状態になります）。



## 元に戻す (つづき)

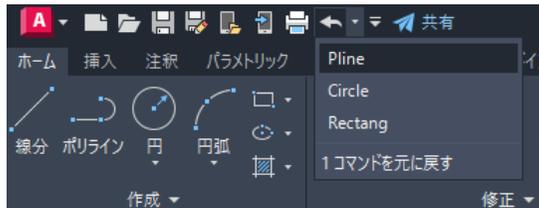
もう一度、 を1回クリックすると、長方形が消えます（長方形を描く前の状態になります）。



「元に戻す」コマンドがなくなったので、コマンドウィンドウには「すべての操作が取り消されました」と表示されます。

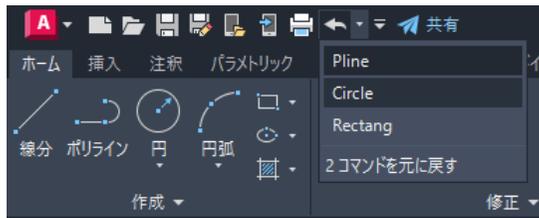
 の隣の  の機能を見てみましょう

同様に、長方形を描画 → 円を描画 → ポリラインにて三角を描画します。  
このとき、 をプルダウンすると下図のようになります。



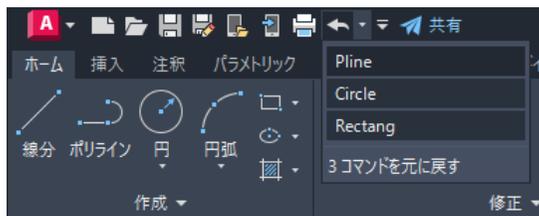
① Pline にカーソルを持っていきクリックした場合

→ 三角が消えます



② Circle にカーソルを持っていきクリックした場合

→ 三角と円が同時に消えます



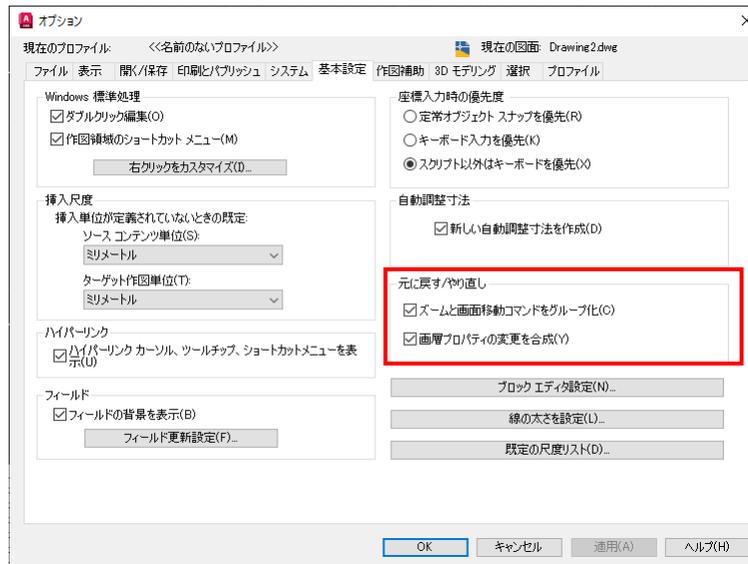
③ Circle にカーソルを持っていきクリックした場合

→ 三角と円と長方形が同時に消えます

## 元に戻す（つづき2）

「元に戻す」：**UNDO コマンド**には、オプションが用意されていますが、個人的には使っていません。  
詳細については、[AutoCAD クイックリファレンス](#)を確認ください。

この中の、「合成(C)」と「画層(L)」オプションは、「オプションダイアログ」→「基本操作」→「元に戻す/やり直し」設定と同じと思われます。



やり直し  
バッチ印刷  
画層  
プロパティコピー  
印刷プレビュー  
プロパティ  
レンダリング  
シートセットマネージャー  
ワークスペース

上記の9コマンドは、デフォルト設定ではチェックが入っておらず有効になっていません。  
チェックした順に、クイックアクセスツールバーに挿入することができます。  
以下、その機能です。

やり直し 

「やり直し」は、「元に戻す」 で実行された取消効果を無効にする機能です。  
だいたい想像できると思いますので説明は割愛させていただきます。

バッチ印刷 

**「印刷」と同様、別途投稿します。**

画層 

現在の画層とその状態（表示、フリーズ、ロック）を表示します。  
また、プルダウンにてすべての画層を表示し、現在画層の変更、選択中オブジェクトの画層変更、および、任意の画層の「状態（表示、フリーズ、ロック）」と「色」の変更を行うことが可能です。

## プロパティコピー

選択したオブジェクトのプロパティをコピーして、他のオブジェクトに適用する機能です。  
以下のプロパティがコピーされます。

色 / 画層 / 線種 / 線種尺度 / 線の太さ / 印刷スタイル / 透過性 / および他の指定したプロパティ

## 印刷プレビュー

**「印刷」と同様、別途投稿します。**

## プロパティ

選択中オブジェクトのプロパティを一覧表示する「プロパティパレット」の表示／非表示を切り替えます。  
複数のオブジェクトを選択すると、共通なプロパティのみが表示されます。



ポリラインのプロパティの例

## レンダリング

このコマンドは 3D 図 に使用するものなので、省略させていただきます。

## シートセットマネージャー

AutoCAD には、シートセットという概念があり、複数の図面のレイアウトを抜き出してシートとして扱い、1 つにまとめたものに名前を付けて管理するものです。

この 1 つのパッケージ単位で、いろいろなことができるようですが、個人的には、使いこなすことができていません。  
(使っていません・・・。)

ということで、説明は割愛させていただきます。

## ワークスペース



AutoCAD には、デフォルトで「製図と注釈」「3D 基本」「3D モデリング」の 3 つのワークスペースが存在します。

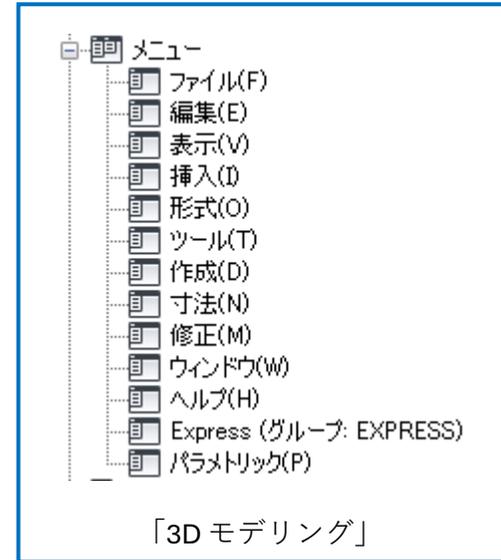
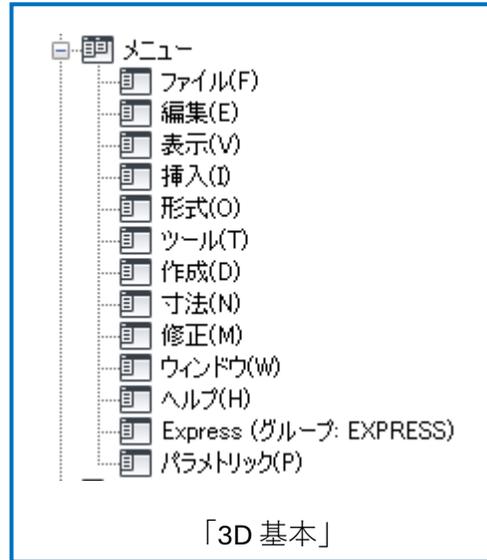
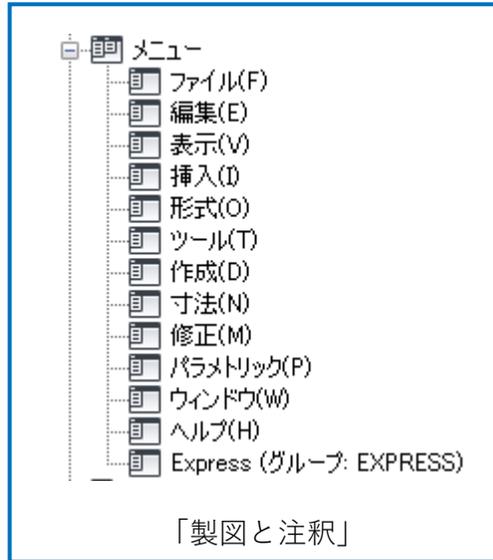
これは、作図の内容によって最適と思われる 「メニュー」、「ツールバー」、「パレット」、「リボン／コントロールパネル」を保存しておき、作業時に切り替えることができるものです。

これらのワークスペースは、変更を加えたり、まったく新しいワークスペースを新規に作成することができます。

ここでは、デフォルトの状態を説明するにとどめ、ワークスペースの変更（カスタマイズ）や、新規作成については、別途記すようにしたいと思います。

## 【メニュー】

「製図と注釈」、「3D 基本」、「3D モデリング」それぞれのワークスペースに表示されるメニューは以下の通りです。  
順番が微妙に異なりますが、まったく同じような・・・。

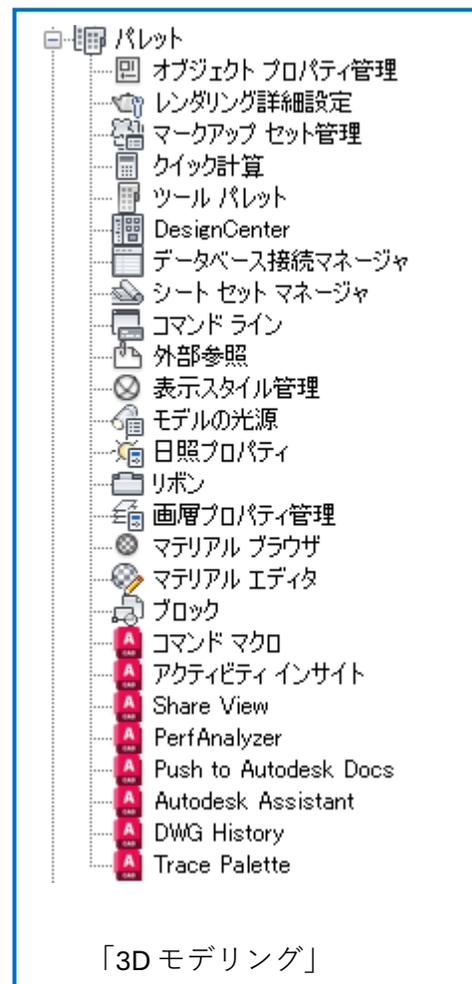
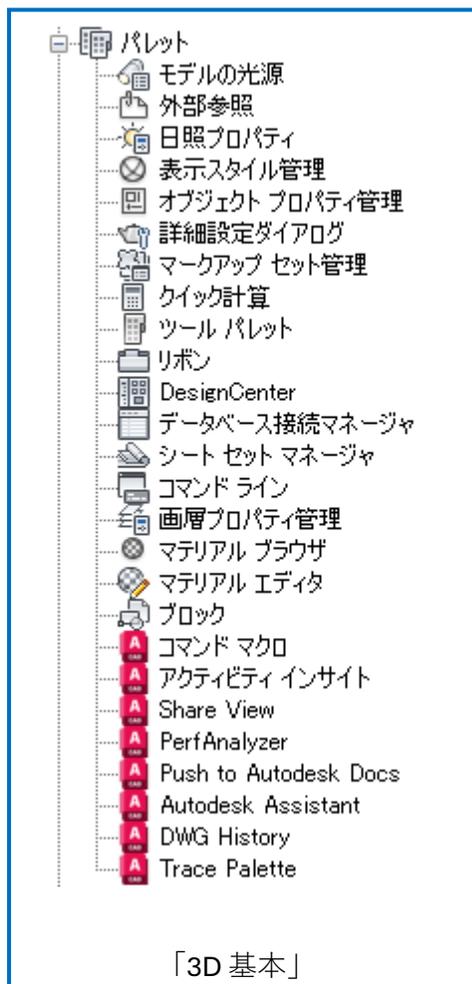
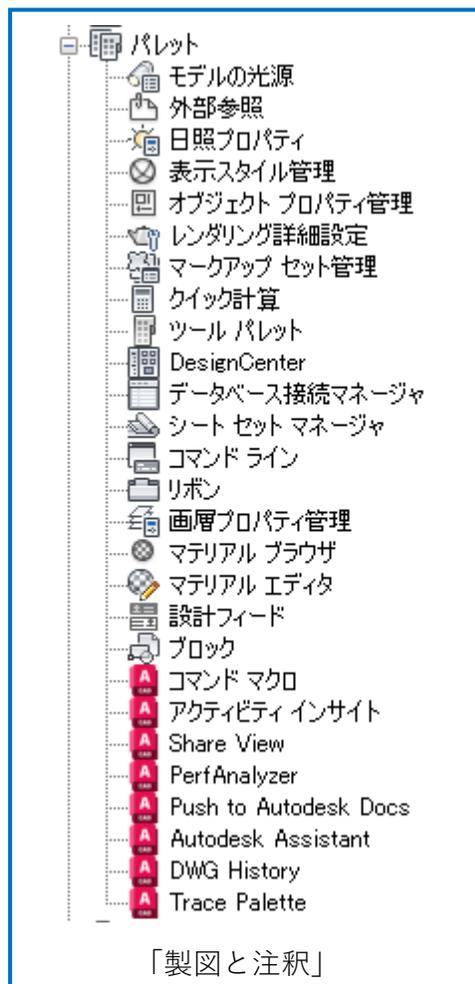


それぞれのワークスペースにおけるメニュー

## 【パレット】

「製図と注釈」、「3D 基本」、「3D モデリング」それぞれのワークスペースに表示されるパレットは以下の通りです。微妙に異なりますが、・・・。

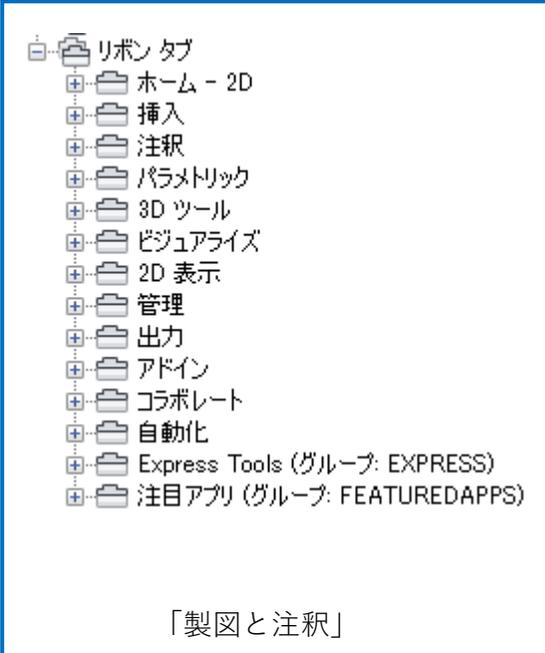
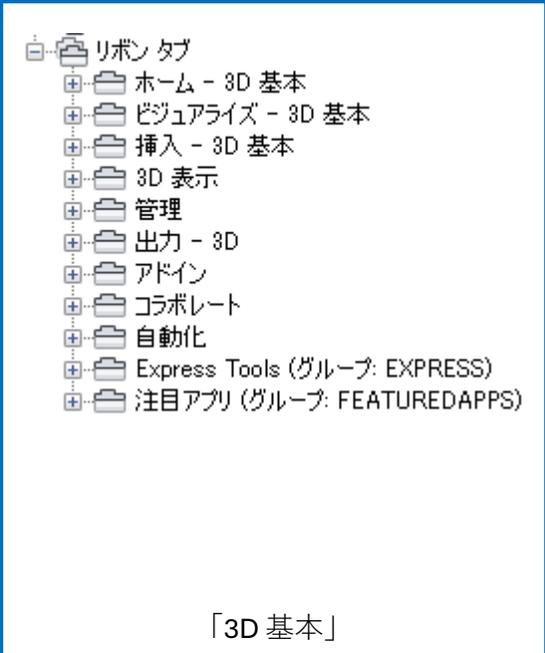
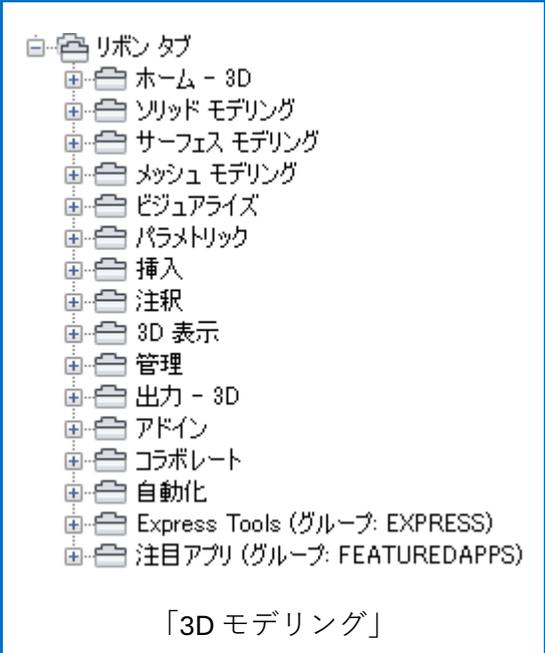
「設計フィード」は廃止された機能なので関係なし。「詳細設定ダイアログ」ってきっと「レンダリング詳細設定」なので全ワークスペース同じですね。



それぞれのワークスペースにおけるパレット

## 【リボン／コントロールパネル】

「製図と注釈」、「3D 基本」、「3D モデリング」それぞれのワークスペースに表示されるリボンは以下の通りです。リボンは、各ワークスペースで、大分異なっているようです。

 <p>「製図と注釈」</p>	 <p>「3D 基本」</p>	 <p>「3D モデリング」</p>
--	---	---

それぞれのワークスペースにおけるリボン

「ワークスペース」の下の「区切り」につづく3つのコマンドについて説明します。

## その他のコマンド…

プルダウンメニューに無い任意のコマンドを、クイックアクセスバーに配置することが可能です。クリックすると「ユーザ インタフェースをカスタマイズダイアログ」が表示されます。任意のコマンドをドラッグアンドペーストすることでクイックアクセスツールバーに配置します。

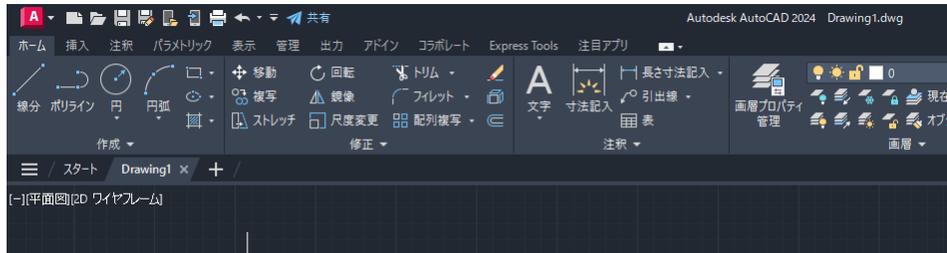
前述の「クイックアクセスツールバーをリボンの下に表示」状態では不可のようです。



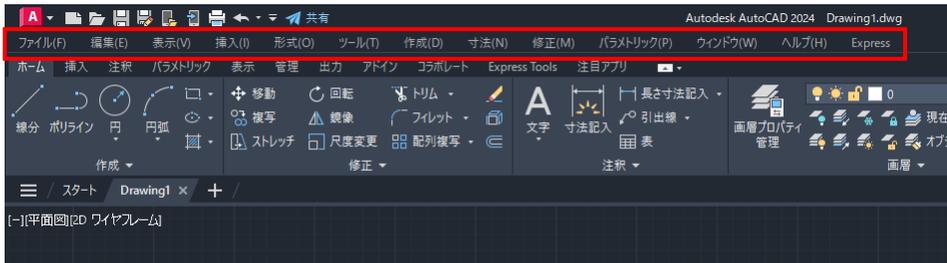
## メニューバーを表示／メニューバーを非表示

メニューバーを表示状態に切り替えます。

切り替えると、プルダウンメニューの表示は「メニューバーを非表示」に変化します。



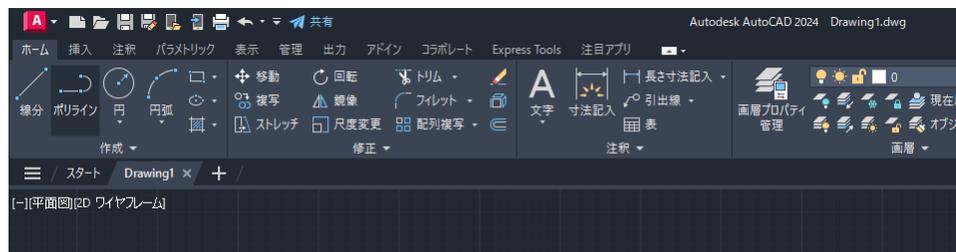
メニューバー非表示状態



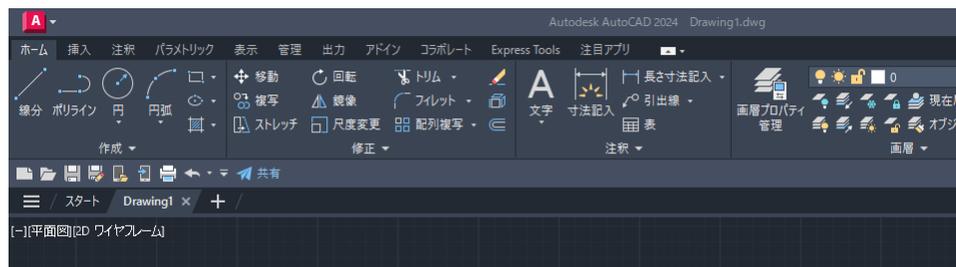
メニューバー表示状態

## リボンの下に表示／リボンの上に表示

クイックアクセスツールバーの表示位置をリボンの下に切り替えます。  
切り替えると、プルダウンメニューの表示は「リボンの上に表示」に変化します。



リボンの上に表示した状態



リボンの下に表示した状態

### 【注意】

リボンの下に表示の状態では、前述の「その他のコマンド...が使用できない」の他に、図面を開いていない状態ではバーのアイコンが有効にならないようです。このため、「新規作成」「開く」「Webおよびモバイルから開く」などで図面を開いて作業を開始することができませんので注意が必要です。